（様式３－１－③）

令和6年度外部評価会　集計表（農業者用）

所属名：南薩地域振興局農林水産部農政普及課

課題名③	南薩地域の特性を生かした稼げる畜産産地の育成					
項目	評価の視点	評価結果（人）			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適当	要改善		
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5	1	0	・自給飼料による経営の安定が重要である	・次年度も，畑においてスーダングラスの不耕起栽培による省力・収量確保の実証，水田においてWCS用稲専用品種による増収実証を行う予定である。
対象の選定	②課題に対して対象（農業者，地区）の選定は適切であるか	2	4	0	―	―
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3	3	0	―	―
	④活動（活動方法，時期，手段）は適切であるか	3	3	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	3	0		
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	3	0	・発情チェックがうまくいかないと，全体の経営が回らなくなるのでシステムをどんどん利用していくべき	・受胎成績が悪い要因は農家によって異なるので，発情見逃しなのか，飼料給与の関係なのかなど，システムを活用して農家毎に要因を究明し改善指導する必要がある。また，今後データを自ら利用する農家の育成を続ける。 ・多頭飼育農家にはICT機器の利用も推進する。
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者，地域への波及性があるか	4	1	1	・子牛の価格が低くなっているが，その対策は？	・低迷する子牛価格相場の中で収益性を上げるポイントは，分娩間隔の短縮や子牛の商品性（血統，発育）向上，自給飼料の増産等による飼料コストの低減であると考える。今後もそれらについて関係機関と支援を継続する。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	3	1		

課題③

（様式３－２－③）

令和6年度外部評価会　集計表（関係者用）

所属名：南薩地域振興局農林水産部農政普及課

課題名③	南薩地域の特性を生かした稼げる畜産産地の育成					
項目	評価の視点	評価結果（人）			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適当	要改善		
課題の設定	①課題は地域の農業振興上，重要な課題であるか	4	3		―	―
対象の選定	②課題に対して対象（農業者，地区）の選定は適切であるか	3	4		―	―
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	3	4		・市町村との取組内容が不明であった	・市町村は，経営安定のための補助事業活用等を中心に農家支援を行っており，関係機関と農家の課題を共有して改善指導に取り組んでいる。
	④活動（活動方法，時期，手段）は適切であるか	2	5			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	2	5			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	3		・WCSを使用することで，酪農家のコスト負担がどれくらい減るかや，乳牛への影響等を入れるべきでは？	・今回の取組におけるWCS用稲は，肉用牛生産農家や経済連への供給であるが，管内の一部の酪農家で利用事例もある。次年度取り組むWCS給与推進においては，ご指摘の内容を示して利用推進する予定である。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	2	5			
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者，地域への波及性があるか	2	5		・交付金が減額されて取組がなくなるようなことがないよう国にも提言をお願いしたい ・耕作放棄地対策のためにも不耕起栽培を確立・推進して欲しい ・WCSについては他の生産者とも情報共有し，慎重に進めていただきたい ・畜産は全体的に猛暑対策を検討してもらいたい	・耕畜連携での取組が，堆肥交換などによりお互いのメリットを確保しながら継続するように支援する。 ・不耕起栽培については，次年度は排水対策を行って収量アップを図る実証を行う予定である。 ・今後も地域再生協議会と連携して，話し合い活動を行いながら進める予定である。 ・これまで同様，送風機や細霧装置等による暑熱対策を推進するとともに，畜産試験場に研究テーマとして試験要望も行っている。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	5			

3　南薩の特色を生かした稼げる畜産産地の育成

酪農家の経営安定と自給飼料増産に向けた支援

成果の要約

1　牛群検定成績データを加工した分析結果の提供，それに基づく改善提案により，牛群，個体毎の飼養改善指導を行った。牛群検定成績の活用を始めた令和２年と比較すると，改善指導効果もあり，南薩地区（14 戸）の生乳生産量（月平均）は，829t から 896t で約 67t 増え，経産牛頭数は，1,121 頭から 1,255 頭で 134 頭増頭した。

2　繁殖成績の改善が必要である重点農家では，繁殖改善及び経営改善提案を受け，発情発見率が増加し，それに伴い，平均初回授精日数は産次平均で 53 日短縮した。

3　スーダングラス不耕起栽培では，従来の耕転区と比較して作業時間が約３割省力化出来，収量も 109%と優れていた。また，令和７年度に，ＷＣＳ用稲の増産が期待できる専用品種の栽培実証を行い，地域への導入を関係機関で検討することが決定した。（南九州市）

1　対象

（1）管内牛群検定実施農家 14 戸
（2）集落営農組織１組織

2　課題を取り上げた理由

（1）酪農家の技術，経営改善に毎月の牛群検定成績データが有効活用されていないため，農家が理解，活用しやすい資料の作成が必要である。また，繁殖成績に課題がある農家は重点的に支援する必要がある。
（2）粗飼料自給率の向上に向けた栽培技術の向上や作付面積拡大のための省力化，また，WCS 用稲の増産が期待できる品種導入の検討が必要である。

3　活動の内容及び成果

（1）酪農家の経営安定支援
ア　牛群検定結果の有効活用による酪農家への支援
繁殖 Web システムからダウンロードした牛群検定結果を分析して，栄養状態や乳房炎（体細胞数），繁殖関係を個体チェックし，飼料給与改善や発情見逃し，自給飼料成分の分析，淘汰更新，牛舎環境の改善，病気の治療の改善提案を行った（写真 1，2）。
その効果もあり，南薩地区（14 戸）の生乳生産量（月平均）は，829t から 896t で約 67t 増え，経産牛頭数は，1,121 頭から 1,255 頭で 134 頭増頭した（図１）。

写真１，２　農家への普及指導活動風景

図１　生乳生産量（月平均）と経産牛頭数

イ　重点農家における繁殖管理及び業務改善指導
繁殖成績や飼養管理改善に向けて ICT メーカーを含めて連携を図り，作業の見直しや，繁殖管理アプリの有効活用などの現状の作業体系をチェックし，課題整理した。その結果，家族間の情報共有がなされ，繁殖アプリを有効活用が出来，発情発見率が増えた。それに伴い，平均初回授精日数は産次平均で 53 日短縮した（図 2）。

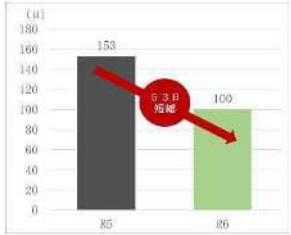

図２　平均初回授精日数（産次平均）

（2）自給飼料増産に向けた支援
ア　スーダングラス不耕起栽培の導入・実証
集落営農法人土里夢たかたが令和 6 年度から行った，不耕起播種機を利用したスーダングラス栽培（写真 3）の省力化と収量確保について実証した。不耕起栽培では，耕転作業と作業の一体化により深耕（プラウ）と耕転（整地）を行わないため，従来の耕転区と比較して作業時間が約 3 割省力化出来た。また，収量も 109%と優れていた（図 3）。この結果より，オペレータからは，従来の耕転・整地の組作業から，1 人で作業できることが大きなメリットであり，次年度作付面積を拡大することとなった。

写真３　不耕起播種機によるスーダングラス播種

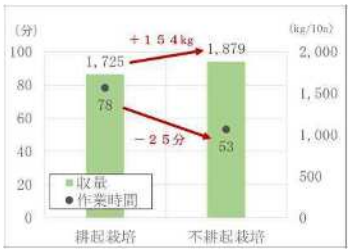

図３　収量と作業時間

イ　WCS 用稲専用品種の導入に向けた検討
現状の主食用米 WCS「コシヒカリ」「イクヒカリ」の収量調査を実施した。

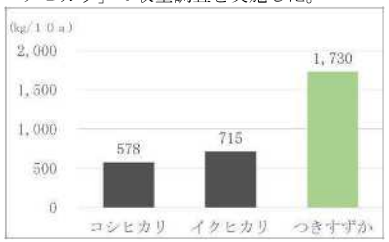

図４　10a あたり乾物重量

県内でも利用が進みつつある WCS 用稲専用品種と比較すると，収量が低いため（図 4），今後水田での飼料増産のために，令和 7 年度からは，WCS 用稲専用品種「つきすずか」の栽培実証を行い，南九州市地域再生協議会を含めた関係機関と協力し，地域への導入を検討することとなった（写真 4）。

写真４　自給飼料増産検討会

4　今後の課題

（1）自ら牛群検定を活用する農家の育成
（2）重点農家の継続支援
（3）不耕起栽培による収量確保の継続実証（排水対策）
（4）地域での WCS 用稲専用品種導入の可能性検討
（5）収穫物の成分や牛の嗜好性の調査
（6）集落営農組織の収益向上支援（地域計画支援）

5　担当した普及職員（○はチーフ）